

楊柳山十禪寺

〔山科郷四宮村にあり〕

天台宗にして、本尊は聖觀音〔立像、長二尺五寸〕

聖徳太子の御作なり。

〔勅封〕旧此地は人康親王ひとやすの御所なり、山階宮やましなのみやと称す。〔人康親王は仁明天皇第四の皇子四品彈正尹山科宮ほんだんじやうやましなのみやと号す、貞觀

元年五月入道し給ひ、同十四年薨す〕厥后御所を寺とし此親王を開祖とす、それより久しく荒廢におよびしを、天和年

中に真慶法師しんけい中興して此に住せり。〔此法師異相の道人にして、牛に騎檻樓を着しながら参内せしといふ〕堂舎は人皇

百十代明正院みやうしやうるん靈夢を感想し給ひ、明暦元年に再營ありて、二重の高閣を建られこれを得月台となづく。上皇をりく行

幸ましくして山水を愛し給ふ。閣前に短冊石といふあり、短冊を敷ならべたる形なり。上皇渡御の時鳳輦の代此石上を

御成あらせられしと聞へし。〔此閣は往昔京極今出川きやうごくいまでがはの東にありし別宮をこゝに引移し給ふ〕御宸筆の額あり、得月台

と書す。閣中の本尊阿弥陀如来ごやうぜいゐんは後陽成院ごやうせいゐんの勅作なり。其外後水尾院ごみづのをゐん、明正院みやうしやうるん、東福門院とうふくもんゐん、常憲院殿等神靈じやうけんゐんを安置す。

又明正院御体鏡みやうしやうるんあり。鎮守は稲荷社、天満宮を勧請す。

四宮川・十禪寺橋／巡り地蔵／蟬丸塔